

10/30 SAT すべての人が繋がる

11/13 SAT 繋がる医療

11/20 SAT 繋がる時空間

東京大学 公開講座

第133回 2021年秋季
(ライブ配信)

繋がる



対象 成人一般・大学生・高校生 定員:各日オンライン3,000名(上限)

受講料 無料

申込方法 <https://www.u-tokyo.ac.jp/publiclectures/entry.html> よりお申ください。

お問合せフォーム https://www.u-tokyo.ac.jp/contact/news_mail_j.php?dir=h-0301&sd=1

●電話: 03-3815-8345
(受付時間: 平日9:00~12:00/13:00~17:00)

〒113-8654

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学 本部社会連携推進課

※やむを得ない理由により、プログラムを休講する場合があります。



第133回 2021年秋季
東京大学公開講座

開講にあたって



第133回東京大学公開講座
企画委員会 委員長
須田 礼仁
(情報理工学系研究科長)

多くの皆さんにとってこの2年弱の間は、これまでになく「繋がる」ことの大切さを実感した時だったのではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症の世界的流行に日本も巻き込まれ、日常生活は一変しました。帰省ができない、結婚式や葬式などにすら立ち会えない、病院・施設等にいる家族に会えないなど、最も基本的な人間関係すら断絶を強いられました。

新型コロナウイルス感染症が地球上のあらゆる場所で猛威を振るうことになった原因の一部に、空路による高速移動の確立、国際的な人流の激増、そして都市への人口の集中があると言われています。長年の努力によって人々が自由にまた便利に繋がる社会が実現され、それが現代の国際経済にとって欠かせない基盤なのですが、図らずもそれをウイルスに利用されてしまいました。人々の繋がりによる経済社会活動と感染症対策とは、両立することができるのでしょうか。そして、どうすれば可能になるのでしょうか。

一方で、情報通信機器とインターネットを使って、バーチャルに人と会う機会が激増しました。情報機器の扱いが得意でない方々には大変かもしれません、最小限の意思疎通ができます。そして、世界中のひとつながることができるなど、工夫次第でいろいろな可能性があることも発見しました。しかし、対面で会うこととは異なる、オンラインの限界もまた実感しました。

オンライン会合には、何が欠けているのでしょうか。それは仮想現実や拡張現実などの技術によって克服できるのでしょうか。この問いの答えは、「人の繋がりの本質は何か」という深淵な問題へとつながっています。すなわち、人格の形成や、人と心理と社会・環境の関係といった根本問題に取り組む必要があり、それには文理の両面からの挑戦が必要です。

他方で、新型コロナウイルス感染症拡大の前から、人々の分断が目立つようになってきたと指摘されています。格差の拡大と人々の分断、多国間の経済的対立や軍備拡張による脅威、複数の国での武力による権力掌握など、国内・国際の社会制度に危うさが目立ちます。

しかし、歓迎すべき動きもあります。国連のSDGsが広く認知され、またあらゆる場面での包摂性の重要さが認識されつつあり、性の多様性などを受け入れる流れが生まれています。温暖化対策でも各國が歩み寄りをし、真剣な議論が始まっています。わたしたちの社会と国際社会は、分断や対立を乗り越えて、お互いを認め合い尊重しあう繋がりを構築・強化できるのでしょうか。

「人間は社会的な動物である」と言ったのはアリストテレスだといいますが、「人は繋がりを必要とする動物である」とも言えるのではないかでしょうか。今回の公開講座では、人が本質的に必要とする「繋がる」ことの本質を、人間と心と機械、人間の繋がりの過去・現在・未来、そして人を繋げる最先端の研究成果から、展望したいと思います。

10月30日(土)「すべての人が繋がる」

12:50～13:00 開講の挨拶

企画委員長／情報理工学系研究科長 須田 礼仁

13 .. 00 ↓ 13 .. 40	<h3>子どもたちはつながれるか— インクルーシブ教育の課題と展望</h3> <p>特別支援教育対象児童生徒は年々8%前後増え続けています。多様な個性やバックグラウンドを持つ子どもたちが「共に学ぶ」ために必要なことは何か、日本のインクルーシブ教育の課題と展望を具体的な事例に則してお話ししたいと思います。</p>	<p>教育学研究科 教授 小国 喜弘</p> 
13 .. 55 ↓ 14 .. 35	<h3>人と社会を繋いで超高齢社会を支える情報学</h3> <p>ひとりの一生が100年に近づく新しいライフステージでは、「繋がり」は個人の健康と社会の持続可能性に響いてきます。高齢期の繋がりを拡張するVRやAI等の情報学を解説し、超高齢社会におけるイノベーションの可能性を考えます。</p>	<p>先端科学技術研究センター 特任准教授 檜山 敦</p> 
14 .. 50 ↓ 15 .. 30	<h3>人を理解し人をつなげるロボティクス</h3> <p>人はどのようにして相手の気持ちを推測できるようになるのでしょうか。私たちは、人のように学習し発達するロボットを創ることで、人の知能の理解を試みています。本講座では、ロボットを通して解明されてきた知能の原理と、人と人をつなぐ技術を紹介します。</p>	<p>ニューロインテリジェンス国際研究機構 特任教授 長井 志江</p> 
15 .. 45 ↓ 16 .. 35	<h3>総括討議</h3> <p>小国 喜弘／檜山 敦／長井 志江</p>	<p>情報理工学系研究科 教授 葛岡 英明</p> 

11月13日(土)「繋がる医療」

13 .. 00 ↓ 13 .. 40	<h3>死生学と応用倫理における「繋がり」という課題</h3> <p>今まで近代西洋の価値観の中心にあったのは個人の自律という考え方でした。しかし、人間を他者との繋がりの中で捉え直そうとする流れもあります。死生学や応用倫理などの新しい学問を題材にその潮流を紹介します。</p>	<p>人文社会系研究科 教授 池澤 優</p> 
13 .. 55 ↓ 14 .. 35	<h3>隔離によりつながる命:中国のCOVID-19対応を中心に</h3> <p>新型コロナウイルス感染症にはいまだに特効薬がなく、かつ集団免疫も実現されていません。中国では、人と人の物理的な「繋がり」を一時的に断つ隔離措置が、コロナ感染またはその拡大防止の中核とされてきました。本講座では、中国のコロナ対策の経験を紹介し、なぜ厳格な隔離が可能となったのか、さまざまな要因について解説します。</p>	<p>公共政策学連携研究部 講師 金 貝</p> 
14 .. 50 ↓ 15 .. 30	<h3>遠隔医療分野に求められる医療機器・システム</h3> <p>少子高齢化の進行により、将来医療への需給バランスが大きく崩れることが予想され、その中で「家庭を病院に」する遠隔医療の実現が重要になると考えられています。その実現のためには必要となる医療機器関連技術について、どのような視点からの開発が必要かも含めて解説します。</p>	<p>工学系研究科 教授 佐久間 一郎</p> 
15 .. 45 ↓ 16 .. 35	<h3>総括討議</h3> <p>池澤 優／金 貝／佐久間 一郎</p>	<p>人文社会系研究科 教授 藤原 聖子</p> 

11月20日(土)「繋がる時空間」

13
..
00
\\$
13
..
40

ともに建築することを介して繋がる

新領域創成科学研究科 教授
岡部 明子



13
..
55
\\$
14
..
35

ポストコロナ時代の建築・都市空間の役割

工学系研究科 教授
加藤 耕一



14
..
50
\\$
15
..
30

記憶を未来につなぐデジタルアーカイブ

情報学環・学際情報学府 教授
渡邊 英徳



15
..
45
\\$
16
..
35

総括討議

新領域創成科学研究科 教授
有馬 孝尚



16:35～16:45 閉講の挨拶 執行役・副学長 津田 敦

【オンライン受講の皆様へ】

当講座は、zoomウェビナーを用いて開催いたします。

パソコン(推奨)または、スマートフォン、タブレットでご参加・ご視聴ください。スマートフォンなどのモバイル通信では、通信量が膨大になり通信ネットワークの影響や、高額な通信費用が発生する場合がございます。必ずご自身で通信環境のご契約内容を確認のうえご使用ください。配信前日までにご登録いただきましたメールアドレスへ講座URLをお送りいたします。

【注意事項】

本講座の撮影(スクリーンショット含む)・録音・録画および資料の2次利用、詳細内容のSNSへの投稿は固くお断りいたします。講演内容の盗用が発覚次第、著作権・肖像権侵害として対処させていただきます。

講座URLの連絡がない場合は、

事務局(https://www.u-tokyo.ac.jp/contact/news_mail_j.php?dir=h-0301&sd=1)までご連絡お願いします。